



2025年9月から10月にかけて、目黒本町福祉工房では宿泊訓練を実施。生活介護事業部および就労継続支援B型事業部ともに、千葉県鴨川市へ一泊二日で訪れました。



令和7年度（2025年度）の目標は、事業基盤を再強化するとともに、2030年問題で指摘される未曾有の人材不足を見据えた「選ばれる法人」を目標とし、いたるセンターの魅力づくりを再構築する重要な年度と位置づけました。

①人材の採用・育成・定着に向けた取組の強化

令和7年度上半期の採用は、入職者38名、退職者29名で、福祉人材の確保は一定量保たれています。退職者については、福祉業界の選抜がミスマッチだったと感じた未経験の非常勤職員が短期辞職するケースが多かった半面、正職員の定着率は順調に上昇しています。

人材育成については、障害者支援研修「eラーニング」「サポーターズカレッジ」の活用促進に加え、法人内講師による各事業所への障害者虐待防止・権利擁護研修、初級中級職員を対象とした身体介助技術の復習研修を行い、高度化・

高齡化する利用者支援の質的向上を図りました。

労働環境の整備については、令和6年度施行の年間休日の拡大（115日から120日）に続き、令和7年度は就業時間の短縮を図り、福利厚生充実と実質上の賃金アップを進めました。新人事考課制度についても、引き続き個別人事評価を5段階から10段階に、賞与の月数の増減ピッチを0.05か月から0.1か月とし、令和7年度夏季賞与に反映。職員のモチベーションを上げ、「やりがい」を提示し「対価」で報いる方針を具現化しました。

②事業基盤強化への取り組み

今年度上半期の事業基盤強化策としては、いたる相談室が一般相談支援事業を追加、代わって高齢者介護部門の居宅介護支援事業を休業し、サポートウイズ全体で障害者支援への強化を図り、人的リソースの集中化を図りました。

各事業所へのテコ入れを通じて得た知見と経験を積み上げていく

また、定期借家契約が満了後、更新ができない施設についても、将来的なビジョンを明確にした上で中長期的展望において再構築を始めてまいります。なお、これらの移転・建て替えに備え、3年前より「施設整備積立」を実施しており、現在6千万円を計上しております。

③共同生活援助（グループホーム）事業の活性化と老朽化対策

包括ケアセンター・グループホーム事業部の活性化を通じ、経営の効率性や採算性が順調に向上しました。老朽化の進むグループホームの移転や建て替えについては、荻窪北マンションのスケールメリットを活かし、杉並エリア全体の再配置を段階的に実施。老朽化の進む施設の建替え時の仮入居先としての活用を検討しています。

令和7年度 上半期 理事長職務執行状況報告

社会福祉法人いたるセンター 理事長 谷山 勝崇

目次 contents

- 01 令和7年度 上半期 理事長 職務執行状況報告
 - 02 事業所通信 事業部からの情報発信
 - 03 *阿佐谷福祉工房 *あけぼの作業所 *イタル成城 *目黒本町福祉工房 *包括ケアセンター・グループホーム *サポートウイズ *クローバー・マルコ *すまいる高井戸 *ビヨビヨおうえん(保育)
 - 04 事業所通信 事業部からの情報発信
- *さんまるしえ *SDGs推進室 *パン工房プクプク *法人本部
- QRコードのご案内
いたるセンターホームページ
いたるセンターInstagram
いたるセンターフェイスブック

「いたる賛助会」では「いたるセンター」の活動を支援していただける方を募集しています。

「幸せな地域社会を作りたい」がこの会設立の趣旨であります。

年会費 105千円（何回でも可）
郵便振り込み 00110712892
(問) 33927346 事務局 山本まで



事業部からの情報発信・事業所通信

■さんまるしえ

店長 表尚哉



さんまるしえでは、フードロス削減への取り組みの一環として「涙目デザインのポップ」を導入しています。これは、ファミリーマートが実施している取り組みで、目黒区からの協力依頼を受けて実施しているものです。

福祉ショップという店舗の特性上、値引きによる対応は行っておらず、売上への直接的な効果は大きくありませんが、商品に目を留めていただくきっかけとなり、フードロス削減への取り組みについてお客様に知っていただく機会となっています。

■SDGs推進室

統括リーダー 渡邊菜都

10月に企業で働く知的障害のある方とともに避難訓練を実施しました。

災害時は原則ビル内に留まりますが、火災などで滞在が難しい場合は、居住者ではないため一時滞在施設へ避難します。

今回は地震後に火災が発生した想定で、一時滞在施設まで実際に移動しました。

訓練を通じて、誘導方法や移動時の課題が明らかになり、次の訓練に向けて改善点を共有する良い機会となりました。



■パン工房プクプク

統括リーダー 池田史暢



旧年中は多大なるご支援賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は2022年より原材料・包材等の値上げが絶え間なく続いており、加えて最低賃金の大幅な上昇、さらには製造スタッフの欠員と非常に厳しい環境になっております。

一方で、利用者様・スタッフ含め全職員のスキルアップが顕著になった年でもありました。

本年の目標は近年の酷暑を逆手に取った対策を考えていきたいと思ひます。製品は揺るぎない安定・安全な品質の提供に取り組んでいきたいと思ひます。

今年は「午年」・・・活動的・行動的に富んだ年とのこと。当事業所も固定観念にとらわれず活動し、スタッフ一同馬車道のごとくまい進していきますので引き続きご支援ご協力賜りますようお願い申し上げます。

■法人本部

総務広報 統括リーダー 山本聖示

社会福祉法人いたるセンターの広報紙「いたる通信」は、今号で100号を迎えました。いたる通信は、ご利用者様と保護者の皆様、地域の皆様に、法人の情報や報告、各施設の取り組みなどをお伝えしてきました。現在は、編集とデザイン・印刷を目黒本町福祉工房が、梱包・郵送をあげばの作業所が担い、法人本部が業務を委託することで、ご利用者様の工賃に還元しております。今後とも、ご愛読のほどよろしくお願いいたします。



いたる広報委員

発行責任者＝谷山 勝崇
社会福祉法人いたるセンター
〒167-0032
東京都杉並区天沼1-15-18
TEL: 03-3392-7346
FAX: 03-3391-8039
Eメール: info@itarucenter.com
HP: http://www.itarucenter.com/
発行日/2026年1月15日

ご意見・ご感想がございましたら、上記のFAX、Eメール等でお声をお寄せ下さい。

いたる広報委員まで。



もっと知りたい、お知らせしたい。いたるセンターのこと





事業部からの情報発信・事業所通信



■阿佐谷福祉工房

施設長 大澤宏

11月14日にベコロジグループが鉄道博物館に、11月28日にミツパッチグループとふくろうグループが海ほたると羽田空港に日帰り旅行へ行ってきました。

鉄道博物館では歴代の車両を見て回り、ミニ列車やパノラマを楽しみました。海ほたるや羽田空港では雄大な景色や発着する飛行機を観察しました。

12月12日にはクリスマス会を行いました。午前中はクリスマスカードを作成したり、サンタクロースと写真を撮ったりしました。午後はプロのミュージシャンに来ていただき、ふれあいコンサートを開催しました。

ちょっと早いクリスマスを皆で楽しみました。



■あけぼの作業所

施設長 山田弘子



目黒本町福祉工房に発注し、何度もデザインの修正を行い納得のいくTシャツが完成！

「笑門来福」

この言葉のように、ご利用者と職員が笑って毎日を過ごしあけぼの作業所にたくさんの福を呼び込みたいと思います。

■イタル成城

施設長 安倍真紀

明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い致します。昨年10月19日にWAKUWAKU祭を開催いたしました。このお祭りは成城8丁目9丁目団地自治会、エリザベート成城、イタル成城の各施設を使った合同の秋祭りです。

イタル成城ではダンスパフォーマンスやバイオリンコンサートなども行い、ご利用者はじめ地域の皆さんにも楽しんでいただきました。

今年初めて開催した、グループホームバンプルの地域連携推進会議でご出席いただいた成城自治会長様より「イタル成城はもちろん知っていたけれど、同じ建物にグループホームがあるとは知らなかった。自治会の行事にもどんどん参加をして交流していきましょう」と言葉を頂きました。

お祭りはじめ、地域行事の参加など地域に根差した取り組みをしていきたいと思っています。



■目黒本町福祉工房

施設長 池田佳津男



目黒本町福祉工房では9月から10月にかけて3回に分け宿泊訓練を実施し、鴨川方面(千葉県)に行ってきました。ホテルの食事はとても美味しく、ご利用者も大満足の様子でした。宿泊したホテルの近くにある鴨川シーワールドでイルカショーや海洋生物を観たり、食事を楽しんだり、お土産を購入するなどしてご利用者には楽しい時間を過ごして頂けたと思います。また、途中の海ほたるでも食事や買い物を楽しんで頂きました。職員達の頑張りに加え、ご利用者にも協力して頂き、無事に宿泊訓練を実施することが出来ました。

就労継続支援B型のご利用者の岩淵考良さんが5月に行われました第26回東京都障害者スポーツ大会に出場し、陸上50m競技で見事金メダルを獲得されました。岩淵さんはスポーツ万能で昨年10月に行われた第23回全国障害者スポーツ大会のソフトボール投げの競技で銀メダルを獲得されています(全国2位です!)。今後の更なる活躍を期待しています。

岩淵考良さん



■包括ケアセンター・グループホーム

ゼネラルマネジャー 五木田義之

大晦日の夜更け。利用者が寝

静まったリビングの窓から見えた景色は、電信柱に小さく照らされた暗闇に続く道路で、車も人も行き来がひとつもなく、初めて泊まるグループホームの勝手のわからない心許なさも相まって、(今年最初の朝であることも忘れて)早く夜明けが来てほしいと願っていました。昨年の時間の流れも、そんな心境になることがよくあったなあと、新しい年を迎えてしみじみ思いました。楽しい時は一瞬で、苦しい時は長く感じるもので、老朽化したグループホームの生活環境を変えたいのだけれども、なかなか思い通りにはならない。それでも昨年出来たことは、青写真を描き移転・改築の方向性が定まったことです。まだスタートラインですが、おかげさまで今年は大事な一歩が進めるとしています。

引き続き、本年もどうぞよろしくお願い致します。

よく
お願いします

■サポートウイズ

マネジャー 三瓶竜也

新しい年を迎え、寒さが一段と厳しくなる季節となりました。皆さまいかがお過ごしでしょうか。

寒い時期は体調を崩しやすい、生活上の不安も増えやすい季節です。私たちはご利用者様やご家族とのコミュニケーションを大切に、小さな変化にも気付

けるよう、職員間での情報共有を徹底しています。その手段として、セキュリティ機能付きのグループチャットを使っています。インターネットを通じてリアルタイムでテキストや画像を送受信でき、記録としても残りますし、コミュニケーションツールとしても便利なツールです。

スマホ無しでは生活できないと言われていますが、チャットが無かったら、仕事の効率も相当下がります。

AIが普及して、メッセージの送り手の表情や声のトーンから感情を読み取って会話できるようになるそうです。

人間的な寄り添いが不可欠な福祉サービス領域にどこまで進化するか、AI動向に関心をもちつつ、サポートウイズは、利用者の皆さまがその人らしく過ごせる毎日を支えて参ります。

■クローバー・マルコ

統括リーダー 加藤大貴

あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。昨年は、職員不足によりご利用者の方へのサービスの質を確保していくことが難しい状況でした。そのため今年は、人員補充やマルコ施設の環境整備等を行い、よりご利用者の方に満足していただけるようサービス向上を目指して精進していきます。何卒よろしくお願い申し上げます。

■すまいる高井戸

センター長 若山大地



12月にセッション並で行われた「ふれあい美術展」にすまいる高井戸のプログラムで作成された作品を出展しました。プログラムの「つどい会」では、井桁講師のサポートのもと、1m×3.6mの大作を15名の参加者で2日間かけ、作り上げました。みんなで一つの作品を作り上げ、完成した喜びをみんなで共有しました。

「ラベンダーの会」では橋本講師のサポートのもと、季節の物や好きな食べ物など、自由に書道を書きました。書道は大人気の活動で、みなさんのびのびと作品を作り上げていました。

12月にセッションで行われた「自立支援協議会トークライブ」では、すまいる高井戸のプログラムに参加されている南川さんが登壇され、お仕事や社会参加、趣味や日々の暮らしについてお話してくださいました。オカリナの演奏も素晴らしかったです。すべての人が、自由に社会参加できる世の中を目指していきたいですね。

■ピヨピヨおうちえん

園長 黒川幸恵

秋らしい季節を感じる期間が短く、急激な気温の低下とともに、世の中ではインフルエンザが流行りはじめました。ピヨピヨ両園でも寒さや乾燥が増してくると、子どもにも大人にも感染が報告されましたが、早急に蔓延防止対策を図る事で全体に拡大することなく保育運営が出来ております。

保育園には、保育士だけではなく専門職の看護師、栄養士もおります。健康面や安全面に関わるお話を、専門職の先生から聞く時は、目を大きくしていつもワクワクしながら、真剣に聞いています。お話を聞いたあとの給食では、普段なかなか進まない野菜を食べてみたり、食事のマナーを意識してみたり、手洗いの歌を歌いながら、しっかり石鹸の泡で指の間のバイキンをやっつけようと、丁寧に洗うなど、子どもたちの意識の変化がすぐ表れるので、いつも驚かされます!様々な専門知識を豊富に活かし、子どもたちの生活が豊かになれば幸いです。

しっかり手洗い、バイキンバイバイ

花王「あわあわ手洗いの歌」参照

★看護師の手作り手洗いカード★

